

## 「みんなの学校」が教えてくれたこと

表題は大阪市立大空小学校 初代校長の木村泰子さん昨年 9 月出版の感動の書。冒頭の『「みんなの学校」とは』紹介したい。

『みんなの学校』は、大阪市住吉区にある公立小学校「大阪市立大空小学校」を、2012 年度のまるまる 1 年間を追ったドキュメンタリー映画である。「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」初代校長を務めた木村泰子と教職員らが掲げた理念のもと、06 年開校以来「みんながつくる、みんなの学校」を目指してきた。

その結果、12 年度の大空小学校に在籍した児童約 220 人のうち、特別支援の対象となる数は 30 人を超えていたが、すべての子どもたちが同じ場で学び合った。さまざまな個性の子どもたちがともに学び合う大空小はまた、地域に開かれた学校として、多くの大人たちで子どもを見守り育ててきた。教職員は通常のルールに沿って加配されているが、地域住民や学生ボランティア、保護者そして子ども自らが自分の学校「大空小」をつくっている。

えてして学校は、担任ひとりが自分のクラスを任される「学級王国」の集合体になりがちだ。ところが、大空はそうではない。教師のみに限らず、校長教頭を含む管理作業員、給食調理員、事務職員の全教職員ですべての子どもを育てる学校づくりを目指している。「支援すべき子は日々変わる」の意識は全教員に貫かれているから、不登校はゼロ。さらに言えば、モンスターペアレントもゼロである。

校則はないが、「自分がされていやなことは人にしない。言わない」という『たったひとつの約束』がある。子どもはこの約束を破ると「やり直す」ために、「やり直しの部屋」と呼ばれる校長室へとやってくる。

映画の前に放送されたテレビ版『みんなの学校』は、13 年度(第 68 回)文化庁芸術祭大賞を獲得した。その受賞理由はこうだ。「他の地域では厄介者扱いされていた転校生が、教師と同級生、そして地域が包み込むことで、素直で心優しい子どもに成長していく姿は、見ている者の心を熱くする。大空小学校の試みは、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革でもある」

映画は 15 年 2 月に封切られると、じわじわと話題になりロングラン&自主上映されるように。文部科学省特別選定にもなった。

この「みんなの学校」上映と語り合う集いが 12 月 3 日(土)1 時から、名古屋市立大学「さくら講堂」で開催される。ぜひ多くの人たちに参加してもらいたい。



(2016 年 11 月 1 日)